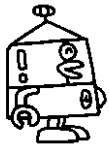


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

水草やこけは、なぜ、たねをまかなくても生えるの



水草でも花がさき、花粉が水に流されて運ばれ、たねができるものがあるし、こけも、たねのようなものでふえるのさ。

たいていの水草は、め花が水面に出てさき、流れてくる花粉を受粉する

水草の中で、水中にはえているクロモやセキショウモなどは、め花だけが水面に出てさき、水面を流れてくるお花の花粉を受け取り、たねができます。たねは、水底で発芽してふえます。

オオフサモやコカナダモなどは、水中のくきの節がおれて流され、岸辺近くで何かにひっかかると、その節から根や芽が出てふえます。

けんび鏡でしか見えない小さな生き物で、プランクトンとよばれるものの一つとして知られるミカツキモなどは、体が二つに割れて、ふえていきます。

こけは、たねのかわりに孢子というものでふえる

ゼニゴケは、庭の北側の日かげや、みぞのふちなどでよく見かけるこけです。全体が、手のひらを広げたような形の、1まいの葉のように見えます。

カボチャにお花とめ花があるように、ゼニゴケにはメスの株とオスの株があり、メス株では卵がつくれ、オス株では精子がつくれます。雨水の流れなどを利用して、精子は泳いで卵にたどり着きます。受精した卵で孢子がたくさんつくれます。

かんそうすると、孢子はふくろがはじけて飛び散り、地面で発芽して葉のようなメスの株やオスの株に育ちます。

見えにくいだけで、水草もこけも、たねや孢子で子孫を残しているのです。

